平成27年度 文化庁日本語教育大会 「生活者としての外国人」のための
日本語教育　テーマ別実践報告会　2015.8.29

第３分科会:子育て・親子の日本語教育の実践

①地球っ子クラブ2000

②外国人親子カンガルーサロン

③NPO法人教育活動総合サポートセンター

＊3つの実践報告の前に、
「生活者としての外国人」のための日本語教育の
取り組みの概要

コーディネータ　石井恵理子（東京女子大学）

日本語教育の内容・方法の改善における成果物

カリキュラム案 5つの成果物（５点セット）

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の

①標準的なカリキュラム案
②活用のためのガイドブック
③教材例集
④日本語能力評価について
⑤ 指導力評価について

「生活者としての外国人」とは

だれもが持っている「生活」という側面に着目して、
わが国において日常的な生活を営むすべての
外国人を指すもの

（ハンドブック　p.6）

生活者としての外国人に対する日本語教育の目標

言語・文化の相互尊重を前提としながら，
「生活者としての外国人」が日本語で
意思疎通を図り生活できるようになること

（ハンドブック　p.5）

生活者としての外国人に対する日本語教育の目標

日本語を使って…

①健康かつ安全に生活を送ることができる

②自立した生活を送ることができる

③相互理解を図り，社会の一員として生活を送ることができる

④文化的な生活を送ることができるようにすること

（ハンドブック　p.5）

言語や言語学習についての考え方

●言語について

・周囲の人と触れ合いや語り合いをしたりする
…多様な役割
⇒生活上の行為

●教室活動について

・「できるようになりたい」と望む生活上の行為と教室活動がつながっていること
⇒行動中心の教室活動

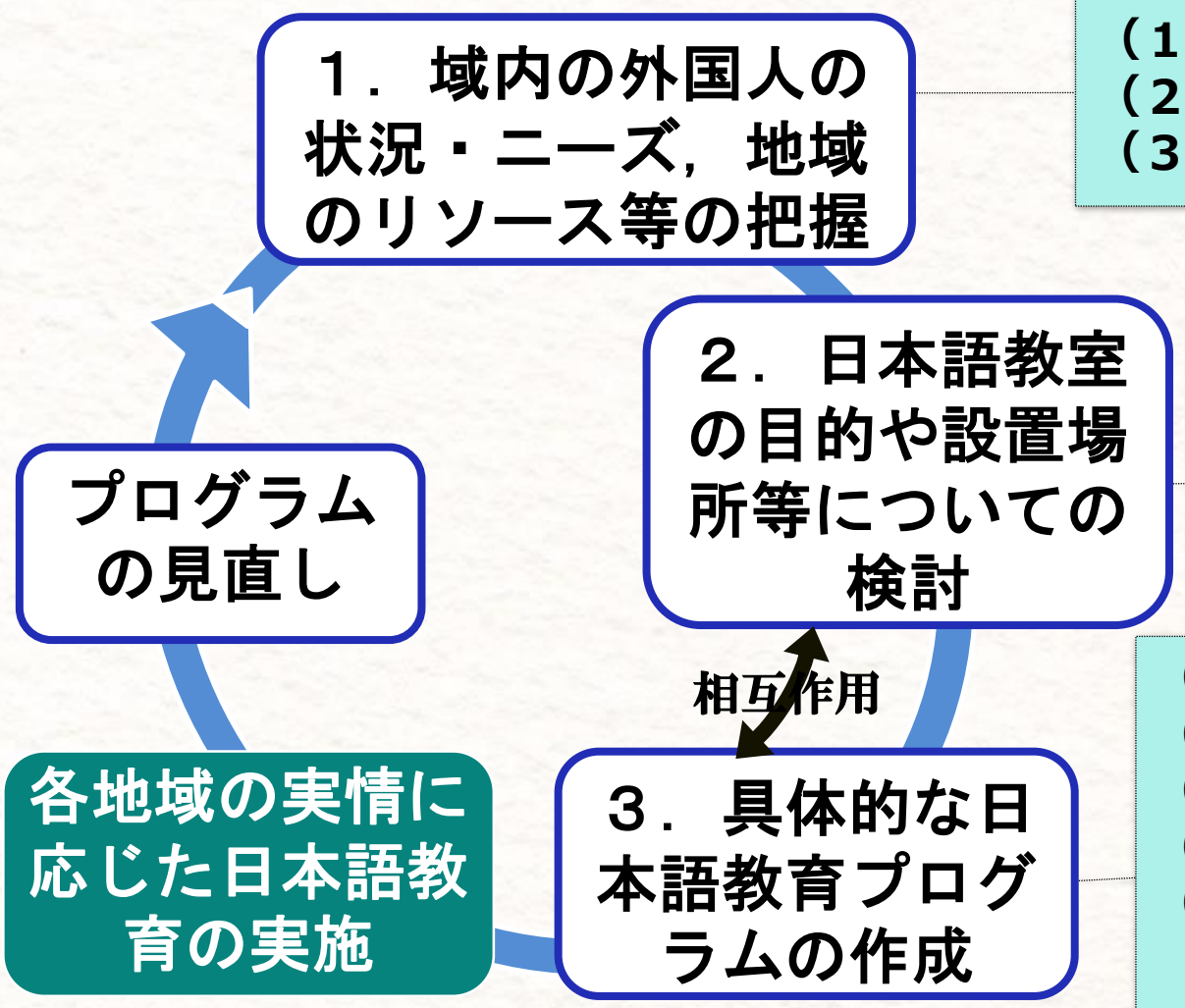
●言語学習について

・学習者が生活の中で実際に必要性を感じて初めて意識され，進むもの

●日本語教室から地域社会へ

・主体性、自律性を重視
・学習者自ら生活を通じ学び続ける
⇒地域住民との協働
⇒人間関係・ネットワークの構築

日本語教育プログラム作成手順



（１）対象とする学習者の属性や数の把握
（２）生活課題の把握
（３）地域のリソースの把握

（１）日本語教室の目的を設定
（２）学習者のニーズ，地域のリソースに基づいた教室の設置
①地域課題，域内の外国人の状況に対応した日本語教室の設置
②行政・関係機関との連絡調整

（１）学習内容について検討
（２）学習順序について検討
（３）学習時間について検討
（４）指導者・協力者について検討
（５）教室活動について検討
①行動・体験中心の活動について検討
②教材について検討
③評価について検討

カリキュラム案の活用及び指導方法のポイント

① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫

② 行動・体験中心の活動

③ 専門家・地域住民との協働

④ 対話による相互理解の促進

獲得された意思疎通の手段により，人とつながること，言葉の壁によって発揮できていなかった自分らしさや力を取り戻したり，発揮できたりするようになること，そして社会の一員として自立し，社会生活のあらゆる領域に参画すること＝**「エンパワーメント」**を実現することが重要。